

高温対策徹底を ナス・ピーマン出荷目合わせ

J A広島中央営農経済センターは7月1日、中長ナスと大型ピーマンの出荷目合わせ会を東広島市園芸センターで開きました。部会長やJ A営農指導員、J A全農ひろしまの担当者らが参加。出荷規格などを確認しました。

中長ナスは、82戸が6.2haで栽培。10月までの出荷を予定しています。大型ピーマンは、58戸が4.0haで栽培。通常より2、3倍大きく、肉厚でジューシーなのが特徴です。出荷は

10月までを予定しています。目合わせでは等級ごとに分けたサンプルで、曲がり具合や傷の大きさなどを確認しました。



▲サンプルを使って品質や大きさを確認する生産者

神楽甲子園へ 賀茂北高校に支援金

J AとJ A共済連広島は、「第15回高校生の神楽甲子園安芸高田」に出場する県立賀茂北高校に、神楽伝承活動支援金を贈りました。7月14日には、J Aの佐伯隆弘専務が同校を訪れ、柏裕美校長に目録を贈りました。

同校備後神楽部は3年生3人、1年生7人の合計10人で活動し、卒業生や地元の豊栄神楽団に協力してもらいながら練習を重ねています。部長の黒川咲穂さんは「日頃の成果を発揮できるよう頑張りたい」と話しました。

7月25日に開かれた神楽甲子園では、5人の部員と卒業生1人が出場し、演目「清め」を舞いました。



▲贈呈式に参加した備後神楽部の部員

農業生産拡大へ 野菜振興協議会総会

広島中央地域野菜振興協議会は7月6日、東広島市で第23回通常総会を開きました。生産者や関係者約50人が参加。今年度の活動計画や収支予算などを決め、農業生産の拡大や協議会活動の活性化などを申し合わせました。

大下博隆会長は「学校給食への地場野菜の供給は増えている。協議会の活性化で生産量を増やしていきたい」と呼び掛けました。総会後は、一般社団法人広島県鳥獣対策等地域支援機構の中川浩二さんが講演しました。イノシシや

シカの生態、対策として餌場や隠れ場をなくすこと、ワイヤーメッシュ柵と電気柵の設置ポイントなどを学びました。



▲議案の採決で挙手をする参加者

コーン皮むき体験 大和認定こども園

三原市大和町の(株)アグリ大和は6月下旬、大和認定こども園の園児47人にトウモロコシ108本を贈りました。地元の園児に農業や食に興味を持ってもらおうと企画しました。

3、4歳児23人は皮むきを体験。同社のスタッフ2人とJ A大和アグリセンターの職員に教わりながら皮やひげをむきました。

同社は40aでトウモロコシ1万本を栽培し、J A産直市「となりの農家高屋店」などに出荷しています。同社の山崎美由紀さんは「子

どもたちにトウモロコシを好きになってほしい」と話しました。



▲教わりながらスイートコーンの皮をむく園児



水 稲

**実りの秋到来! 適期収穫で
高品質米の確保を**

9月はいよいよ収穫期を迎える大切な時期です。これまでの栽培管理の成果を十分に発揮するためには、最後まで適切な水管理と適期収穫を行うことが重要です。特に高温条件では、落水が早すぎると登熟不足や白未熟粒、胴割米の発生につながるので注意しましょう。

◆収穫前の管理

●登熟期間中の管理

これまででは、間断灌水や中干しにより根の活力を上げる管理を行ってきましたが、これからは、収穫まで根の活力を維持していく必要があります。さらにこの時期は、玄米肥大期を迎えるため、水管理を徹底して行いましょう。

稲は出穂後25〜30日頃まで玄米を

肥大させるため、多くの水分を必要とします。田んぼの乾かし過ぎは品質低下につながるので水を切らさないことが重要ですが、水を溜め続けると根が酸欠状態になります。最後まで根を健全に保つため間断灌漑で管理しましょう。

●落水・早過ぎず、乾かし過ぎず

落水の目的は、土を乾かし、コンバイン作業を安定させ、稲刈りを効率よく行えるようにすることです。落水する時期は出穂後約30〜40日で、稲刈りの約10日前を目安に行います。しかし、天候や田んぼの土壌条件(湿田、乾田)なども影響するため、こまめな管理を心掛けましょう。

また、早期落水は籾の肥大が悪くなり、未熟粒やくず米、胴割米を増加させます。早期落水により田んぼが乾きすぎた場合は「走り水」を行い、土壌水分を維持することが重要です。

●台風への備え

9月は台風の接近が多くなる時期です。最新の気象情報を確認し、台風接近の恐れがある場合は事前に排水路や排水口の草や土砂を取り除き、排水路を確保することや、収穫適期を迎えていれば台風接近前の収穫も検討しましょう。

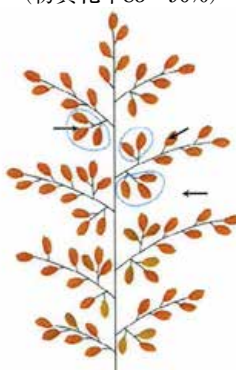
また、強風で葉から急激に水分が

(1)刈取適期7〜10日前
(籾黄化率50〜70%)



印の点線内の籾(上・中位1次枝梗)は黄化しているが、残りの点線内の籾(2次枝梗)はまだ緑色

(2)刈取適期
(籾黄化率85〜90%)



点線内の2次枝梗が黄化した時

◆刈り取り適期について

蒸発し、葉先枯などの障害が発生しやすくなるため、できる限り深水管理をし、葉からの蒸散を防ぐようにしましょう。

もしも台風が到来した場合は、台風通過後に安全確認を行い、田んぼに水が溜まっている場合は速やかに落水を行いましょう。また、倒伏した圃場がある場合は穂発芽等の品質低下を防ぐため、天候の回復を待つて早めに収穫しましょう。

◆乾燥調製のポイント

●生籾の変質防止

コンバインで収穫した籾は変質しやすく、籾水分や気温が高いとさら

に変質しやすくなります。刈り取り後は、4時間以内に送風乾燥します。

●乾燥温度と仕上げ水分

高速での継続乾燥は胴割れが発生しやすくなり、品質や食味を低下させる原因となりますので、毎時乾燥減率0.8%以下で乾燥しましょう。

乾燥機張り込み後、2時間程度通風乾燥を行い、水分ムラをできる限り少なくして加熱乾燥するとより安全です。適正な玄米水分目標は、14.5%です。乾燥機での乾燥終了時に再度、水分測定器で測定し、水分過不足を確認しましょう。

◆出荷の際の注意点

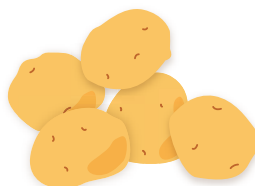
- ・玄米水分は14.5%以下(過乾燥に注意)。乾燥時および籾摺り時に水分計で測定してください。
- ・正味重量30kg(皆掛け重量30.5kg)。量目不足にならないよう、ライスグレーダーなどを調整確認してください。
- ・モミ混入。籾摺り機の調整整備をしてください。
- ・水稻栽培履歴及びチェックシートを出荷前に必ず提出してください。

※今年度から導入した「モバイル版水稻生産履歴記帳支援サービス」をご利用の方は、水稻栽培履歴及びチェックシートの提出は不要です。

野菜

「秋じゃが」の栽培

ジャガイモは、タマネギと同じく1年を通して消費する身近な野菜の一つです。原産はアンデス山脈で、日本には16世紀末に伝わりました。



◆連作

連作を嫌うので2〜3年はナス科作物の植え付けは避けましょう。

◆温度

生育適温は、10〜23℃と冷涼な気候を好みます。イモの形成適温は17℃で、29℃以上になると肥大しません。特に夜温が10〜14℃が適温で、20℃以上はイモの肥大は低下します。霜には弱く、マイナス1.5℃で凍死します。

◆土壌

耕土が深く、有機物が多く、排水の良い砂質土壌に適します。土壌酸度は、pH5.0〜6.0の酸性が良く、アルカリ性では、そうか病が出やすくなります。石灰のやりすぎは厳禁です。

総施肥量の目安は10a当たり窒素8.5kg・リン酸11kg・カリ10.5kgです。家庭菜園では化成肥料「8-8-8」を1㎡当たり100gとなります。

◆種イモ

市販の検査済みのものを使います。食用ジャガイモでも栽培できますが、ウィルスや菌に感染している可能性がありますので種イモとしては使用しないでください。

◆植え付け

畝幅60〜70cm、株間30〜35cm植え、または、畝幅120〜140cmの2条植えとします。種イモは35〜50gに切ります。80〜100gのものを縦に2つ切りが最も適しています。種イモは植え付けの1〜2日前に切り、切り口を上にして日陰で乾かします。植え付けは、切り口を下にして5〜7cm土を被せます。深植えは出芽が遅れ、浅植えは緑化の原因となります。マルチ栽培では土寄せができません。そのため、10cm以上覆土します。

◆芽かき

出芽後、草丈が10cmほどになったら「芽かき」を行います。メークインなら1本、デジマなら放任、それ以外の品種は2本を原則とします。最も太くて元気な芽を選びます。芽が多いとイモの数は増えますが、1個あたり

のサイズは小さくなります。

◆土寄せと追肥

1回目は、芽かき後の草丈が15cmになった頃に行います。成肥料30〜50g、土を株元に5〜7cm寄せます。2回目は、つぼみが付き始めた頃に行います。成肥料30〜50g、土寄せをしてさらに5〜7cmの土を寄せます。

◆収穫

秋作では茎葉が枯死してから行います。品種にもよりますが、植え付けから90〜120日が目安です。天候に注意し、雨の日や雨の翌日の収穫は避けましょう。貯蔵中に腐敗の原因になります。

◆貯蔵

収穫後、風通しのよい日陰に1〜2日程置き、乾燥させます。新聞紙に包むか、紙袋に入れて冷暗所で保存します。段ボール箱にまとめて入れ、新聞紙を上に乗せると良いでしょう。



栽培管理に関するご相談はお近くのアグリセンター営業指導員まで。

アグリセンター 棚卸による休業のお知らせ

棚卸に伴い、まことに勝手ながら**9月30日(水)**はアグリセンターを休業させていただきます。

ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。



広島中央地域 アグリセンター 休日営業のお知らせ

秋の農繁期に次の期間、休日営業を実施しています。

【農繁期休日営業 実施期間】

8月22日(土)〜10月25日(日)

【営業時間】

午前8時30分〜午後5時

広島県を代表する米どころ、東広島市。今年も東広島の“ぶちうまいお米”“No.1”を決める「ぶちうまいお米コンテスト in 東広島」を開催します！

本コンテストは、株式会社サタケ製の機器による品質測定と食味審査で予備審査（1次、2次審査）を実施。さらに、決勝で審査員による食味審査が行われます。

第6回

ぶちうまい お米コンテスト

たくさんのご出品をお待ちしています



in東広島

- 出品者には、次のようなメリットが！**
- ① 審査結果は報告書でフィードバック
 - ② 決勝審査日に全出品者を対象に審査結果表の見方を解説
 - ③ 通常の品質測定料に比べてお得な価格でお米の品質が分かる
 - ④ 毎年の参加で、お米の品質の数値変化を把握することが可能
 - ⑤ 上位入賞者（10位以内）には豪華な副賞も！

参加資格 東広島市に居住もしくは事業所・圃場を有する農業者、農業者団体、法人

出品米 ○令和8年産米 東広島市産 単独品種とする
○品種登録されているもの。または品種登録出願が受理されているものに限る
○1経営体につき5点まで出品可
○複数出品の場合、栽培方法または品種が異なる米に限る

出品料 1出品につき2,000円
申込受付後にご案内する振込先に入金（振込手数料は自己負担となります）

申込受付期間 令和8年10月20日（火）まで

募集点数 200点（募集点数に達し次第、受付終了）

申込方法 申込書に必要事項を記入の上、窓口、郵送のいずれかにより提出

申込書送付先 東広島市役所 産業部 ブランド推進課
〒739-8601 東広島市西条栄町8番29号 TEL:082-422-1032

※決勝審査に進出が決まった上位5名のお米については、1袋30kgを市場価格より高く買い取らせていただきますのでご協力をお願いします。
※予備審査の結果は11月10日頃にお知らせいたします。

出品米の提出について（申込受付後に米袋と詳細をお送りします）

出品期間 令和8年10月1日（木）～30日（金）

提出物 申込をされた精米1kgおよび栽培履歴

提出先 ひろしま農業協同組合広島中央地域営農経済センター
〒739-0142 東広島市八本松東2丁目21-1
東広島流通センター市場棟2階
TEL:082-423-5913 FAX:082-426-5071

東広島市
園芸センターより

環境制御装置導入支援事業のご紹介

園芸センターでは、近年の気候変動に対応し、農作物の安定生産や省力化に効果が期待される環境制御技術の普及を進めています。環境制御装置は、ビニールハウスに温度や湿度、土壌水分量、二酸化炭素濃度などを測定するセンサーを設置し、作物の栽培に適した環境となるよう、かん水やカーテンの開閉などを自動で行なうものです。

環境制御装置の導入をご検討いただくため、次の補助事業をご紹介します。



▲モニタリングカメラ



▲環境制御装置制御盤

【事業名】 環境制御装置導入支援事業

【対象者】 園芸作物出荷販売農業者

【補助率・限度額】 補助対象経費の1/2、上限100万円

【補助対象】

- ① 自動制御に必要な測定センサー（温度、湿度、水分、二酸化炭素、日射）
 - ② ①で感知した環境を自動制御する器具（換気、温度調整、灌水、施肥、日射制御）
 - ③ センサー及び器具の制御盤
- ※①②③いずれかが単体の導入でも可
※ビニールやパイプ等の消耗資材は対象外

申込・問い合わせ

東広島市園芸センター TEL (082)433-4411

